

茨城大学学報

第316号

平成26年8月～平成26年9月



平成26年9月1日付で学長に就任した三村信男新学長（学長所信表明）

INDEX

- ◆ 三村信男新学長所信表明「新しい魅力あふれる茨城大学への変革を目指して」
- ◆ 「水戸黄門まつり」に9年連続で参加
- ◆ 人文学部2年生が小山市消防本部から感謝状を受贈
- ◆ 茨大生による無料学習支援プロジェクト～「学びと交流の秘密基地」の開設～
- ◆ 工学部「ものづくり体験・理科工作教室」開催
- ◆ 水戸キャンパスでCMロケ撮影を実施
- ◆ 推奨授業表彰式を挙げる
- ◆ 「科学研究費学内説明会」及び「公的研究費使用ルール説明会」を開催
- ◆ 茨城大学同窓会連合会と茨城大学役員との懇談会（第8回）を開催
- ◆ 教育学部「地図教材制作ワークショップ」開催
- ◆ 平成26年度茨城大学学位記授与式を挙げる

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

◆ 三村信男新学長所信表明
「新しい魅力あふれる茨城大学への変革を目指して」

平成26年9月2日

学長 三村 信男

私は、平成26年9月1日に茨城大学長に就任致しました。どうぞ宜しくお願い致します。学長就任に当たって、私の抱負を述べたいと思います。

【大学を取り巻く状況】

現在、国立大学には未曾有の改革が求められています。この背景には、わが国社会の大きな変化があります。第1は、世界でグローバル化が進む一方、国内では人口減少社会等多くの課題があることです。こうした課題を克服する上で、最大の鍵は優れた人材であり、社会は、勇敢に課題に立ち向かい問題を解決する人材の育成を大学に強く求めています。第2は、その若者世代の人口が減少し、やがて2025年には18才人口が現在よりさらに12万人少ない106万人になることです。そのため、大学の魅力をアップして若者の入学者を確保するとともに、社会人の学び直しや外国人留学生に対して積極的に門戸を開いていく必要があります。本学でも、第3期中期目標期間（平成28～33年度）において持続的な競争力を持ち、高い付加価値を生み出す大学となるため、本学の教育・研究・社会貢献機能を更に強化し、特色を打ち出すことが求められています。

本学は平成16年の法人化以降改革を積み重ねてきましたが、社会の変化のスピードと期待の大きさから見れば、改革努力は部分的なものにとどまっていると言わざるを得ません。本学の最大の課題は、大学改革の方向性を全学で共有し、学部や分野毎の改革努力を全学の大学改革に大きく統合して、本学の特色を明確に打ち出すことです。私は、教育改革と教育研究組織再編、ガバナンス改革をパッケージにした包括的な改革を着実かつスピード感をもって進めたいと考えています。



【大学改革の方向性】

私の考える茨城大学のビジョンは、「持続可能な地域づくりの拠点となる大学、その中で世界的な強み・特色が輝く大学」です。大学改革の目的は、このビジョンを具体化して、以下に示すような新しい魅力あふれる茨城大学へと変革することにあります。

- ① 教育の質的転換：地域活性化を担いさらに広く社会で活躍する総合力をもった人材を育成する大学
- ② 地域への貢献：地域に根ざした「地域の知の拠点」として広く社会から支持される大学
- ③ 強み・特色の発信：特色ある研究成果を社会、そして世界に発信する大学
- ④ 社会的責任の自覚：公正で開かれた運営によって社会的責任を果たす大学

大学改革の柱は、教育改革、教育研究組織の再編、ガバナンス改革の3つです。

グローバル化が進み変化の激しい現在の社会で活躍するためには、社会の多様性を理解し、国際的な視野をもって地域の課題解決に当たる総合力が必要です。この総合力の要素を簡潔に示せば、①教養に裏付けられた俯瞰的な視野、②深い専門性、③他者と協力して課題解決に挑む人間力、となるでしょう。これらを養うため、アクティブ・ラーニングや教養教育を重視し、「教える」ことから「主体的に学ぶ」ことへの教育の質的転換を図ります。さらに、アジアや欧米の大学との交換留学や短期研修を拡充することで、学生の成長を支援する多様な勉学環境を整えます。

茨城大学の特色は、地域に根ざし、持続可能な地域社会づくりに貢献してきたことです。これまで、地域企業との共同研究、環境保全と自然エネルギーの開発、防災、自治体のまちづくり支援などの実績を積み重ねて来ました。2014年4月には「社会連携センター」が始動し、新しく文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（COC事業）」を開始したところです。今後、茨城県、市町村、企業、市民団体などの皆様との連携を一層広げていきます。また、研究面では、材料科学や原子科学、気候変動問題、バイオ燃料、霞ヶ浦の環境改善、震災・放射能災害からの復興支援などで高い成果をあげてきました。高度な研究活動を一層強化して特色ある分野を生み出し、茨大発の成果を国際的、全国的に発信していきたいと考えています。研究と地域連携では、多様性と異分野の連携・融合を重視し、広い裾野の上に優れた成果が生み出されることを期待しています。

こうした改革の土台として、教育研究組織の再編を検討しており、現在、各学部・研究科から組織再編案を集約した段階にあります。これまでの検討に基づきつつ、茨城大学の機能を強化するという全学的な視点から早急に改革案をまとめます。さらに、本年6月に、学校教育法と国立大学法人法が改正されました。それを受けて、教授会や教員選考のあり方などをどのようにするか検討する必要があります。大学の活動は、学問と研究の自由に基づく自由な教育・研究を基本としています。この基本的精神を尊重しつつ、法改正の趣旨に則って、学内の意欲を結集できる効率的な運営体制を整えたいと考えています。

このような包括的改革を進める上では、教職員の中でのビジョン・情報の共有が極めて重要です。そのため、「大学改革アクションプログラム」を早急に提示します。この中で、第3期

初期までの大学改革の工程表を示して、学部・学科、事務局などがどのように取り組むべきか見通しが持てるようにします。

【既に始まっている改革の取り組み】

以上に述べた大学改革はゼロから始めるわけではありません。昨年から今年にかけて、既に茨城大学の新しい方向を示す出来事が続いています。

第1のイベントは、今年4月の図書館のリニューアル・オープンでした。新しい図書館はラーニング・コモンズや自習室など学生が自主的、主体的に勉強できる施設を整えています。教育改革の一環として、日立と阿見キャンパスでも、こうした主体的勉学環境を拡充したいと考えています。第2は、東南アジアの大学との間で昨年からはまった「大学の世界展開力強化事業」において、日本を代表する11大学の1つに選ばれたことです。本学は、インドネシアのボゴール農科大学とガジャマダ大学、タイのカセサート大学との間で学生の相互交流を始めており、海外での勉学の機会が大きく拡大しています。さらに、今年7月には「地（知）の拠点整備事業」に採択されました。地域の課題に取り組む Project-Based Learning (PBL 教育) をカリキュラムに組み込んで、多様な社会問題を抱える地域社会を教育研究の最先端のフィールドと位置付けて、学生が主体的かつ意欲的に学ぶ教育を進めます。

こうした実績をバネにして、上に述べた改革を推進したいと考えています。

【全学の意欲を結集する開かれた大学運営】

この改革を成し遂げて茨城大学の将来展望を開くことは、全ての教職員の力の結集なくしてはなしえません。そのため、大学執行部の経営・企画立案機能を強化する「大学戦略・IR 室」の設置、学部長との一体感のある執行体制、経営協議会の機能の発揮、茨城県をはじめ学外の関係者との連携協力体制の強化など、戦略的で開かれた運営を行います。それとともに、学内の現場の課題を把握し、厳しい財政状況の中でも、教職員の能力の向上、FD や各種研修の機会の整備、働きやすく働きがいのある職場づくり等を進めます。そのために、女性教員を含む新しい執行部の体制を整えました。

大学は、高等教育機関であるとともに、持続的な地域社会づくりを支える上で不可欠な「社会の公器」です。このことを深く自覚し、茨城大学が教育、研究、地域連携、国際化を通して社会の発展に貢献できるように、開かれた運営を行って参りますので、教職員、学生、さらには地域の関係者の皆様のご協力をお願い申し上げます。

以上

◆ 「水戸黄門まつり」に9年連続で参加

本学は、平成26年8月2日（土）に水戸市で開催された「第54回 水戸黄門まつり・市民カーニバル in MITO」に、「夏の思い出にみんなで踊ろう」のキャッチフレーズのもと、9年連続で参加しました。市民カーニバル前日には雷と夕立があり、当日の天気も心配されましたが、天候にも恵まれたなか、教職員・学生は元気よく、午後4時30分から午後8時30分まで、水戸市内を踊り通しました。

今年は、過去最高の50チーム（約3,900人）が参加し、本学からはインドネシア、ベトナム、タイ及び中国からの留学生を含む、総勢100名を超える教職員・学生が参加しました。

市民カーニバルでは、「みとちゃん」（水戸市マスコットキャラクター）応援ソング「もっと meet みとちゃん」に、水戸市小学校体育連盟の教師がダンスの振り付けを考案した「みとちゃんダンス」を一般の参加者も含めて参加チーム全員で最初に踊りました。

その後、恒例の曲目「黄門ばやし」と「ごきげん水戸さん」を交互に、市民カーニバル終了まで踊りました。

残念ながら、入賞はかなわず、昨年同様「参加賞」にとどまりましたが、市民カーニバル終了後に大学に戻って開催した懇親会では、参加した教職員・学生から「参加して本当に楽しかった。思い出になりました。」と感想が述べられました。



“茨城大学”の旗を持つ須藤財務部長（中央）



市民カーニバルの様子

◆ 人文学部 2 年生が小山市消防本部から感謝状を受贈

平成 26 年 8 月 8 日（金）、人文学部 2 年生高原直也さんに小山市消防本部から感謝状が贈呈されました。

高原さんは、平成 26 年 7 月 11 日（金）に栃木県小山市内のカラオケ店にいたところ、別の部屋から煙が出ているのを発見し、初期消火を行い、被害を最小限にとどめました。

* 高原さんのコメント *

「早期の発見と消火により、傷病者が一人も出ることなく、建物の延焼も最小限にとどめることができ、本当に良かったです。また、通報後、すぐに駆けつけてくださった小山市消防本部ならびに栃木県警察の方々に深く感謝申し上げます。」



感謝状贈呈を受ける高原さん



高原さんを囲んでの記念撮影（小山市消防本部消防長室）

◆ 茨大生による無料学習支援プロジェクト ～「学びと交流の秘密基地」の開設～

人文学部労働経済論ゼミ（清山玲 教授，学生 23 名）では、平成 26 年度、ワーキングプアの問題や貧困の世代間連鎖について学んでおり、そこで問題意識を持った学生たちが、社会的課題の解決に向けて、無料の学習支援プロジェクトを起ち上げ、夏休みに「学びと交流の秘密基地」（期間：8/18-29，場所：水戸市双葉台ショッピングセンター）を開設しました。

「学びと交流の秘密基地」には小 1 から中 3 までの子どもたちが数多く訪れ、茨大生から数学や英語、作文などを個別に教えてもらいながら集中して勉強に励んでいました。参加した小中学生からは、お礼の言葉や「今日で終わり？困る！」といった終了を惜しむ声があり、本プロジェクトの成功が感じ取れました。

本プロジェクトは、平成 26 年 3 月に茨城大学が NPO コモンズの協力を得て開催した円卓会議に、人文学部労働経済論ゼミの学生たちが参加し、生活困窮世帯の生徒への学習支援について事例をもとに協議したことから具体化しました。学生たちは、地元の小・中学校、茨城県社会福祉協議会、水戸市教育委員会、水戸市役所、ショッピングセンターの管理運営責任者の方々と打合せをしていくなかで、信頼を勝ち取り連携・協力関係を構築し、問題点を一つ一つ克服してプロジェクトを成功に導きました。

今後、支援を必要とする子どもたちに継続して効果的に幅広い支援（学習・進学支援、キャリア教育・就職支援など）を届けるには、茨大 OB・OG や地域の方々も含めたボランティアの組織化や資金調達などが課題となります。これらの課題を克服して、プロジェクトを継続・発展させることが期待されています。



（上）勉強を教える茨大生たち

（左）人文学部労働経済論ゼミ生のうち初日参加メンバーの記念写真



◆ 工学部「ものづくり体験・理科工作教室」開催

工学部は、平成 26 年 8 月 22 日（金）、日本機械学会関東支部共催、日立市教育委員会後援の下、地域連携推進の一環として、「ものづくり体験・理科工作教室」を開催しました。毎年開催してきたこの教室は今年で 9 回目となり、小学生 2 年生～6 年生 12 名とその保護者が参加しました。

今年の「ものづくり体験・理科工作教室」では、「フリフリライト」、「立体万華鏡と PP バンドサッカーボール」、「カップホバークラフト」の 3 テーマを実施し、また体験コーナーとして自転車発電による模型電車走行や、子供が乗車可能なホバークラフトのコーナーを準備しました。

当日はまず、米倉達広工学部長と関根正美総括技術長から、今回の体験を通して、ものづくりの楽しさを感じてもらいたいなどの趣旨説明があり、続いて、スタッフがサポートする中、ものづくり体験・理科工作を行いました。今回は試験的に 2 年生も受け入れたこともあり、マンツーマンのスタッフ体制を敷いて特に安全に配慮しました。工作中はスタッフの説明に耳を傾けながら懸命に手を動かす姿が見受けられ、作品完成後は動作原理に興味深く聞く姿や、別テーマの工作を行ったり、ひとつでは飽き足らず 2 個目を作成したりと、時間の許す限り楽しむ姿が見られました。

最後の集合写真撮影時には、満面の笑みと共に自分の作品を自慢げに掲げ、帰り際には「来年も参加したい」という言葉が方々から聞くことができました。



「ものづくり体験・理科工作教室」参加者とスタッフ



自分で作成したカップホバークラフトで遊ぶ参加者

◆ 水戸キャンパスでCMロケ撮影を実施

平成 26 年 9 月 4 日（木）、本学水戸キャンパスで住友生命保険相互会社のCMロケ撮影が行われました。

フィギュアスケートの浅田真央さんを起用し、“頑張る若者を応援する”というテーマの下撮影されたこのCMには、本学の学生も多数参加しました。撮影は、今年 4 月にリニューアルオープンした図書館屋上や図書館前広場などで行われました。また、理学部棟実験室では、理学部学生が出演し、実験シーンの撮影も行われました。

CMは9月21日（日）より放送されています。



※「YOUNG JAPAN ACTION 浅田真央×住友生命」とは、ブランドパートナーの浅田真央さんをプロジェクトリーダーとしてお迎えし、若者が考える社会的課題を解決する活動（アクション）の支援を行っていく、住友生命の新たな社会貢献プロジェクトです。

（住友生命 YouTube「ヤングジャパンアクション 叫び（募集）」篇 30秒より抜粋）

◆ 推奨授業表彰式を挙行

本学では、平成 26 年 9 月 16 日（火）に推奨授業表彰式が挙行され、受賞者に対して、三村信男学長より表彰状が授与されました。

平成 25 年度に開講された授業からは、総合英語より野村幸代講師（大学教育センター）の「プレレベル 3」、臼坂高司講師（教育学部）の「情報処理概論」および岡裕和教授（工学部）「微分積分」の 3 件が選ばれました。

この推奨授業表彰制度は授業の改善及び教育力の向上を目的として、平成 13 年度に制定され、年度終了毎に教養科目の中から優れた取組みをし、成果を上げた授業を、本学大学教育センターが選定しています。選定の対象となるのは、専任教員が担当する正課授業で、「推奨授業推薦書」、「学生による授業評価」、「当該授業の成績評価」、「シラバス」などを基に人文、社会、自然、外国語（英語、未修外国語）、健康・スポーツ、情報科目の各代表者を中心にして教育上の努力や工夫、優れた教育技術や到達度などの観点から評価が行われています。

表彰式終了後の懇談会では、三村学長と受賞者が授業の工夫、学生の反応などについて意見交換を行いました。表彰を受けた教員が今年度担当している授業は、学内教員向けに公開され、授業の質の改善に生かされる予定です。



左より、臼坂高司講師（教育学部）、小口祐一副センター長（大学教育センター）、岡裕和教授（工学部）、三村信男学長、野村幸代講師（大学教育センター）、佐藤和夫センター長（大学教育センター）

◆ 「科学研究費学内説明会」及び「公的研究費使用ルール説明会」を開催

本学は、「科学研究費助成事業（科研費）学内説明会」及び「公的研究費使用ルール説明会」を平成 26 年 9 月 17 日（水）に開催しました。この説明会は科研費制度に関する意識向上を目的に、応募件数の拡大と採択率の向上を企図して、さらに公的研究費の適正な執行を確保し、不正防止等の徹底を図るため毎年開催しているものでありますが、今年は特に「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」及び「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」が改正されたことを受け、「研究活動の不正防止」と「公的研究費の使用ルール及び不正防止」に時間を割いて、公的研究費使用ルールの再確認と不正防止の徹底を図りました。

説明会は、三村信男学長の挨拶に続き、尾崎久記理事・副学長（学術）から茨城大学における科研費の採択状況と研究活動の不正防止についての説明が行われました。

さらに、学内から科研費審査員の経験者及び採択実績の高い田内広教授（理学部）と立川雅司教授（農学部）を講師に迎え、科研費の応募のポイントについて説明が行われました。

また、企画課職員から科研費公募要領の変更点が説明され、学内の不正防止計画推進本部から公的研究費の不正防止について説明が行われました。

当日は、バーチャルキャンパスシステム（VCS）を利用して説明会の様子を 5 地区（水戸キャンパス・日立キャンパス・阿見キャンパス・フロンティア応用原子科学研究センター・広域水圏環境科学教育研究センター）に同時配信し、約 280 名が説明会に参加しました。



挨拶する三村学長

◆ 茨城大学同窓会連合会と茨城大学役員との懇談会（第8回）を開催

平成26年9月18日（木）、事務局会議室において「第8回茨城大学同窓会連合会と茨城大学役員との懇談会」が開催されました。

この懇談会は、茨城大学同窓会連合会の事業趣旨の一つである「茨城大学との連携及び協力」の一環として毎年1回開催され、今年は同窓会連合会関係者10名及び大学役員等20名が出席しました。

臼井敏雄会長の開催挨拶に始まり、本年9月に就任した三村信男学長から挨拶があり、一新した大学役員の紹介及び今後の大学運営等について解説がありました。

また、各学部同窓会からその近況等について報告があり、様々な支援活動の紹介と併せ、大学への一層の協力要請がありました。さらに、大学の地域社会へ向けた取り組みや社会連携の推進にあたり、同窓会を介した広報や大学資源の有効活用等について提案や意見交換があり、今後も連合会と大学が協調して展開していくことを確認して閉会となりました。



懇談会の様子（左）

懇談会終了後の記念撮影（下）



◆ 教育学部「地図教材制作ワークショップ」開催

教育学部村山朝子教授は、NPO 法人伊能社中と共催して、平成 26 年 9 月 19 日（金）に「地図教材制作ワークショップ」を開催しました。本学の学生以外に高校生や一般社会人の参加もあり、参加者は 30 名にのぼりました。

NPO 法人伊能社中は、学生主体の団体で、電子地図と写真や映像を融合したデジタル教材の開発及び学校等への提供を目的とし、自治体や学校などのニーズに応じて各地で様々な活動を行っています。

今回のワークショップは、デジタル地図を活用した教材作成を演習形式で体験することを通して、参加者がその可能性を実感することを目的として開催されており、その活動の開発にあたった首都大学東京の渡邊英徳准教授による概要説明の後、参加者は 1964 年当時の東京の写真を、現在の Google Earth の 3 次元画像に重ね合わせる活動を体験し、作業を通してこの半世紀にわたる東京や人々の生活の変化を辿りました。

当日は、伊能社中の学生インターンでもある本学学生がファシリテーターとなって進められ、伊能社中スタッフである他大学院生の支援を受けつつ、所属や年代を超えて参加者同士が交流しながら学び合う姿が見られました。

これまで紙媒体が主流であった地図のデジタル化が進み、思考や表現のツールとしての地図の可能性が一気に広がったことにより、社会科の授業ばかりでなく環境教育、防災教育など広く教育においてデジタル地図は有用な教材として注目されています。



ワークショップの様子①



ワークショップの様子②

◆ 平成26年度茨城大学学位記授与式を挙

平成26年9月24日（水）、茨城大学茨苑会館 第7・8集会室において「平成26年度茨城大学学位記授与式（秋季）」を挙

席者が見守る中、三村信男学長から学位記が授与され、新たなステップへのスタート地点に立った卒業生・修了生へ、「これまで支えてくれた多くの方々と喜びを分かち合い、複雑化する社会において、今後は大学での学びを誇りとし、知識やスキルを基礎に一層の発展を期待したい」と、告辞が述べられました。



告辞を述べる三村学長



記念撮影（博士）



記念撮影（修士）



記念撮影（学士）